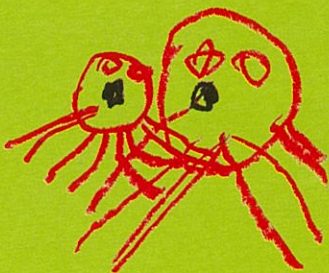




国立大学附属幼稚園からの提案

幼児教育と小学校教育を つなぐために



平成18年2月
全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

私ども全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会では、附属幼稚園として、大学と協同しつつ今日的諸課題について研究を進めて参りました。このたび、その成果をリーフレットとして全国の教育関係者に発信する運びとなりました。学校教育の基盤としての幼児教育の充実・発展のためにご活用いただけると幸いです。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会
会長 加藤 幸一

目次



— 国立大学附属幼稚園の取り組み —

幼児教育と小学校教育をつなぐための4つの取り組み 3

— 先進的研究の概要 —

学びの接続 ～協同的な学びを視点に～ 宇都宮大学教育学部附属幼稚園 4

幼小連携[接続期]を設けて考える お茶の水女子大学附属幼稚園 5

『今を生きる』教育の充実と創造 滋賀大学教育学部附属幼稚園 6

3歳から12歳まで一貫したカリキュラムの構築 岡山大学教育学部附属幼稚園 7

幼小連携データベースの開発 鳴門教育大学附属幼稚園 8

— 国立大学附属幼稚園の役割 — 9

〈コラム〉これからの幼児教育 神長美津子先生(東京成徳大学)

— 国立大学附属幼稚園(49園) 平成18年度研究テーマ一覧 — 10~11

Illustration: Children of the kindergarten attached to Tokyo Gakugei University
Design: Kenichi MASAKI, Rieko TAKE



幼児教育と小学校教育をつなぐための4つの取り組み

附属幼稚園では、幼児の生活の連続性と発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実に
向けて、幼児教育と小学校教育をつなぐための4つの取り組みを進めています。

1. 幼児・児童の交流活動

全国の附属幼稚園では附属小学校
との間で幼児・児童の交流活動
を行っています。

- * 小学校と幼稚園が行事を一緒に行ったり、幼児と児童
がペアになって生活することで、幼児の遊びも広がり、
小学校へのあこがれや期待感をもたらしている。
- * 継続性、互惠性、相互理解をキーワードとし、交流活動の
実践を重ねている。

幼稚園

2. 幼小の相互理解のための研究

全国の附属幼稚園と附属小学校では
相互理解の為の研究を進めています。

- * 個々人の発達及び指導データや保育内容のデータを整
理・蓄積し、検索可能なデータベースを作成している。
- * 小学校の教材研究・教材開発に学び、遊びを豊かにする「も
の」との出会いとかかわりを工夫している。
- * 小学校教師に幼稚園教育を理解してもらうために指導
案の書き方を工夫している。
- * 小学校の生活科と幼稚園のプロジェクト型保育
とを幼小連携のフィールドに据えている。

小学校

3. 幼小連携カリキュラムの 研究開発・実践

全国の附属幼稚園では幼小連携カリキュラムの
研究開発が進められ、実践に移されています。

- * 「12年間一貫・一体カリキュラム」に基づいた教育を行い、
このカリキュラムの検証を行うために小学校につながる
子どもの学ぶ姿を集積し、話し合いを持っている。
- * 幼小連携の教育課程を編成、実施し、その結果につい
てカンファレンスを行い、反省・考察、及び修正し
ていく。その過程で数人の幼児・児童を抽出し、
幼稚園や小学校での実践事例のデータを
継続的に収集し分析・考察している。

4. 接続期を設けた教育課程の 研究開発・実践

幼小の間に接続期を設けた
教育課程の開発を進め、実践に移している
附属幼稚園・附属小学校もあります。

- * 小学校とともに「接続期」を明確に設定したことで、幼小
それぞれに意識的に教育内容や指導方法を改善している。
- * 幼稚園における「遊びの中の学び」と小学校における「授
業の中の学び」は共通の軸の上にある。「他者との対
話」「対象との対話」「自己との対話」という3つの対話
の構造の上に成立する「学び」の概念を用いるこ
とで、幼小をつなぐことを可能にした。

* 欄の記述は、全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会「接続期に関するアンケート調査」より抜粋

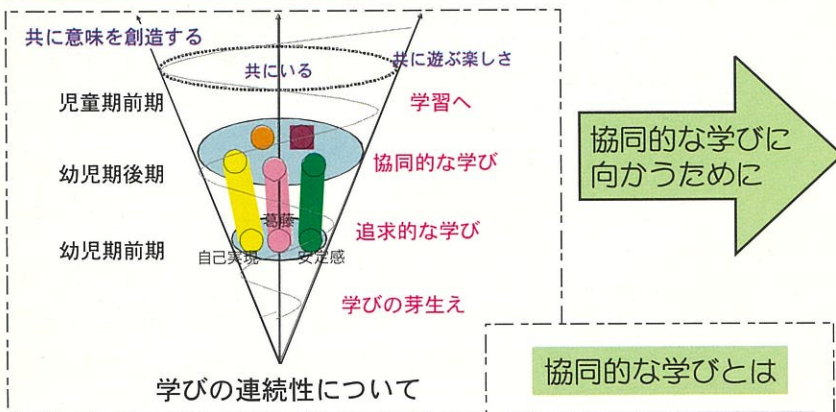
学びの接続 ～協同的な学びを視点に～

宇都宮大学教育学部附属幼稚園

幼児期後期から児童期前期へ移行する子供たちの様々な発達や育ちに依っていきことが接続期における一人一人の学びの連続性を保障する。学びの連続性については、協同的な学びを視点に、児童期を見据えた幼児期後期の教育の充実、幼児期の育ちをふまえた児童期前期の充実を目指すことが大切である。

▼協同的な学びとは？

(学びの芽生え～追求的な学び～協同的な学び～学習へ)



学びの連続性について

幼児期前期に没頭する遊びの中で、追求していくことの楽しさ、学びの喜びを体得していると、幼児期後期には、一人一人の主体的な遊びに友達がかかわるなどして協同的な活動になり、そこで新しい経験や方法を獲得し、自分のものとしてとりいれ、自分たちの遊びの中で活用しようとするようになる。また、友達との遊びの中で自分の考えや思いを表現し、友達と折り合いをつけながらより高い次元の学びを創造していくことも可能になる。このように一人一人の学びが互いに響き合い個人の価値観を超えて自分の世界をより豊かにしていこうとする姿を「協同的な学び」とし、幼児期後期には大切な学びの姿である。

協同的な学びとは

相手の価値観を感じあうことを通して意味のあるものとして取り入れ個人の価値観を超えて自分の世界をより豊かにしていこうとする姿

協同的な活動での育ち

- ・新しい経験に向かうきっかけになる。
- ・新たな目的が見つかる。
- ・自分のしている遊びのヒントになり深まる。
- ・友達の持ち味に気付く。
- ・集団の中で自分の存在を感じる。

▼協同的な学びに向かうための

協同的な活動

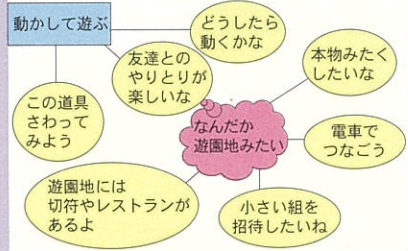
教師が子供たちの刺激になり学びが深まっていくようなテーマを投げかけることによって「協同的な活動」をうみだし、そこに「協同的な学び」が成立していく。

協同的な活動とは

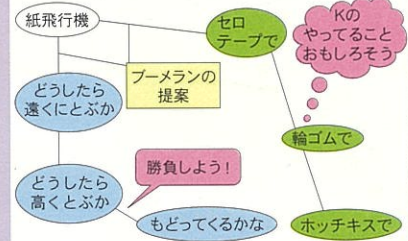
- ひとりひとりが思いや願いをもって主体的に活動
- ・友達とやっていることを取り入れる
- ・集団にかかわることで充実感を得る
- 互いの学びが響き合う
- 活動の質が高まる

▼協同的な活動のイメージ図

協同的な活動のイメージ図1
～「動かして遊ぶ」の事例から～

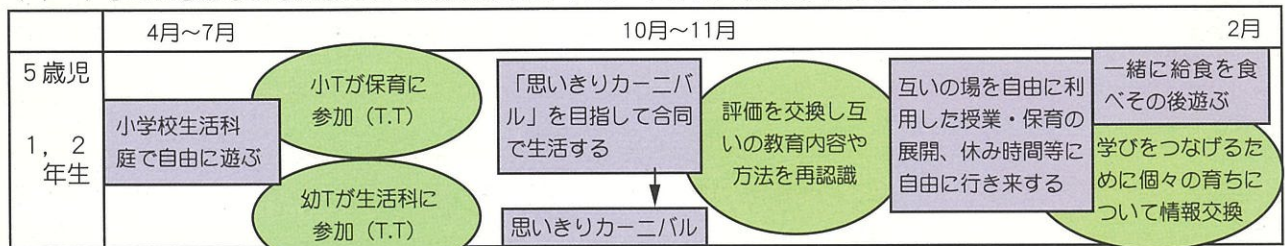


協同的な活動のイメージ図2
個が世界を広げていく過程を追って
～「とばして遊ぶ」の事例から～



▼学びをつなげていくために

幼小合同活動での評価で新たに認識したことの一つは幼稚園は最終的な目的にたどり着くまでの寄り道を大切な経験としており、小学校は目的にまっすぐ向かう姿をよしとするなど目的に向かう子供の姿への考え方の相違であった。このことを認識した上でもう一度子供の育ちをイメージすると子供の協同的な学びの芽を見出すことが可能になる。またこの活動を通して幼小互いの教師が子供をどのように見てどのようにかかわっているのか、ものとの出会いをどうコーディネートしているかなどを知ることで接続期のカリキュラムを再び考える手がかりになった。



幼児・児童の交流や活動

教師の相互理解

問い合わせ先 宇都宮大学教育学部附属幼稚園

〒320-8538 宇都宮市松原1-7-38
e-mail: fuyo@cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: (028) 622-9051
FAX: (028) 625-8016

幼小連携[接続期]を設けて考える

お茶の水女子大学附属幼稚園

1 研究の概要 (研究開発指定期間 平成13年度～15年度)

幼稚園と小学校が連携し、子どもの実態に即しながら「関わりあって学び力を育成する」教育の在り方について9年間を通して考えることとした。

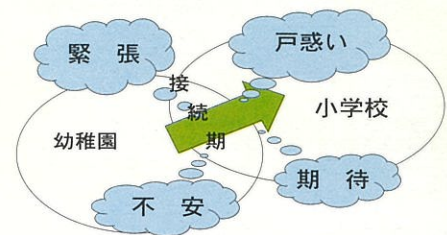
3歳から12歳までの心身の発達は著しい。幼稚園と小学校の接続を特に考慮し、新たに「接続期」を設け、教育課程を編成した。

2 接続期の設定

(1) 接続期を次のように捉えた

人との関係や周囲の環境が大きく変化することに伴い、子どもたちの戸惑い・不安・期待などを教師が丁寧に受け止め支えながら、教師や友だちとの豊かな関わりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期

接続期の位置づけとその意味



「接続期」の3つの期とねらい

前期	幼稚園5歳児後半～3月	関わりを広め深める・小学校生活に向け体験の共有化を図る
中期	小学校1年生入学～GW前	小学校生活へ安心して移行し、自分を表現できるようにする
後期	小学校1年生GW後～7月	知への興味を耕し、自分で考え学んでいこうとする姿勢を育む

(2) 接続前期(幼稚園5歳児後期)の取組

- * じっくりと製作し、みんなで取組むことのできる保育室の環境構成の工夫
- * 試行錯誤する時間の保障とみんなで集う時間の工夫
- * 一人一人の発想や遊びを活かし、みんなの活動につなげる教師の働きかけの追究

(3) 接続中期・後期(小学校入学当初～GW前)の取組

- * 教師の働きかけの仕方、教師と子ども、子ども同士の信頼関係を生み出しやすい空間構成の工夫
- * 生活・学習の流れが分かりやすい時間構成の工夫

一人一人の場



みんなの集まる場



教室の座席を少し後ろにさげ、黒板前に空間をつくり、活動の内容によって使い分ける。

時間枠の設定の工夫

◎朝の会で一日の予定を考える

- ・前日までの活動の想起
- ・一人ひとりの思いを上げ、一緒に過ごす意識へ

自分の思いや願いをもち伝える

◎一日の中では、2～3の活動を組む

- ・園での生活リズムの取り入れ
- ・無理のない活動

安心感を与え、生活が安定する

3 研究の評価と課題

接続期の設定は従来の幼稚園と小学校の段差を、子どもの発達に即して乗り越えようとした試みである。

接続前期は人や物との関わりを深め、体験の共有化を図ることを目指した。このことは接続中・後期の実践省察によって「友だちとの関わりを大切にする力」「集団の中で生活する意識とマナー」の重要性が挙げられたことにも裏付けられ、接続前期の実践において強く意識されている。それまでの個人ベースの生活より、周りの人や物との関わりを強く意識した実践がなされた。しかし接続中期・後期において大事だと指摘された「じっくり見てみる力」「出会ったことから、さらに発見する洞察力」「どんなことにも挑戦しようとする意欲」が前期において子どもたちにどのように身につけていったか、さらに検証することが必要である。

接続中・後期は「安心して自分を表現できる」「知への興味を耕す」ことを目指し、幼稚園の環境構成の工夫に学び、教室やワークスペースの利用、時間枠の柔軟な設定、体験重視により、子どもの側から学びを見る視点を大事にした。ただし、「生活に生きる学び」を重視するあまり、学ぶことの純粋な欲求、喜びなどを忘れないようにしなければならない。学習分野のねらいがどのように具現化されたのか、教師が子どもの学びを評価し、常にフィードバックする姿勢を持ち続けることが重要である。

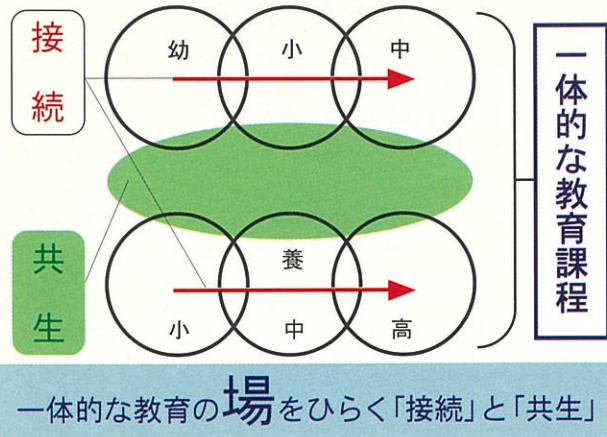
4 今年度からの取組 (研究開発指定期間 平成17年度～19年度)

今年度からは新たに「幼・小・中12年間の適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの開発 一協働して学びを生み出す子どもを育てる」に取組んでいる

問い合わせ先：お茶の水女子大学附属幼稚園
TEL 03(5978)5881 FAX 03(5978)5882
E-mail ochayou@cc.ocha.ac.jp

『今を生きる』教育の充実と創造

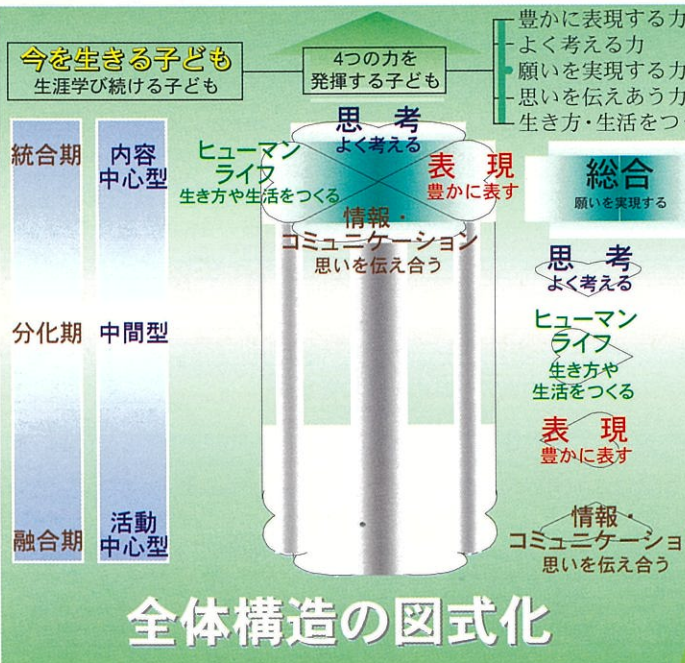
滋賀大学教育学部附属幼稚園



四つの力で貫かれた幼・小・中のカリキュラム

学年	科目・単元	4つの力
12年 11月16日	小学校 小1	思考 よく考える
11年 9月8日	小学校 小2	表現 豊かに表す
10年 7月6日	小学校 小3	情報・コミュニケーション 思いを伝え合う
9年 5月4日	小学校 小4	人間科 生きる力
8年 3月2日	小学校 小5	総合 願いを実現する
7年 1月1日	小学校 小6	総合 願いを実現する
6年 10月1日	小学校 小6	総合 願いを実現する
5年 9月1日	小学校 小5	総合 願いを実現する
4年 8月1日	小学校 小4	総合 願いを実現する
3年 7月1日	小学校 小3	総合 願いを実現する
2年 6月1日	小学校 小2	総合 願いを実現する
1年 5月1日	小学校 小1	総合 願いを実現する
12年 11月16日	中学校 中1	総合 願いを実現する
11年 9月8日	中学校 中2	総合 願いを実現する
10年 7月6日	中学校 中3	総合 願いを実現する
9年 5月4日	中学校 中4	総合 願いを実現する
8年 3月2日	中学校 中5	総合 願いを実現する
7年 1月1日	中学校 中6	総合 願いを実現する
6年 10月1日	中学校 中6	総合 願いを実現する
5年 9月1日	中学校 中5	総合 願いを実現する
4年 8月1日	中学校 中4	総合 願いを実現する
3年 7月1日	中学校 中3	総合 願いを実現する
2年 6月1日	中学校 中2	総合 願いを実現する
1年 5月1日	中学校 中1	総合 願いを実現する

【自ら選んでする遊び（融合的活動）】

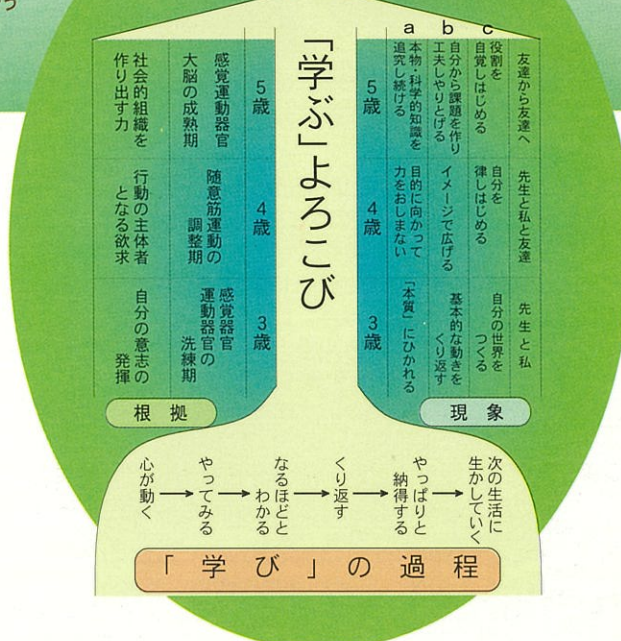


どんな激動の時代がこようと、その今、今に適応し、自分らしさを見失わないで、力強く生きる子ども

子どもの学びを大切につなぐ 学びのシステム

「学びの過程」を基盤に、12年間の学びを貫く四つの力

[教育課程の土台となる発達のみちすじ]
生涯学び続ける力
心が育つ



子どもたちの発達段階に応じたカリキュラム

学齢	カリキュラム	特徴
中学校	内容中心型カリキュラム (教科)	魅力ある内容を獲得する過程でさまざまな「学びの機能」を高める学び
小学校	中間型カリキュラム (活動・教科)	魅力ある活動と内容を結び、表現・思考等、四つの力につながる「学びの機能」を確かにする学び
幼稚園	活動中心型カリキュラム (活動)	魅力ある活動を通して、さまざまな「学びの機能」を目覚めさせる学び

発達段階: 統合期 (小学校高学年～中学校), 分化期 (小学校低学年～小学校高学年), 融合期 (幼稚園～小学校低学年)

問い合わせ先: 〒520-0817 滋賀県大津市昭和町10-3
TEL・FAX 077-527-5257 <http://www.fk.shiga-u.ac.jp/index.html>

滋賀大学教育学部附属幼稚園

3歳から12歳まで一貫したカリキュラムの構築 — 幼小のなめらかな接続をめざして —

岡山大学教育学部附属幼稚園

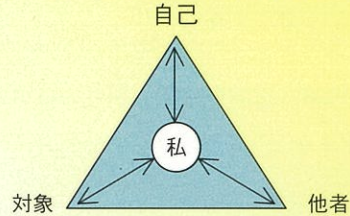
① 発達段階

I 期	II 期	III 期	IV 期	V 期
3歳児	4歳児～ 5歳児 前半	5歳児 後半～ 1年生	2年生 ～ 4年生	5年生 ～ 6年生

3歳から12歳まで、それぞれの時期の子どもに適切な形で教育していく必要性から、発達心理学の文献や専門家からの意見、発達実態調査を元に、5つの期を設定した。

学齢によって区切るのではなく、子どもの発達の過程で区切ることで、幼小を連続して見るができるようになった。

② 豊かな学びの姿(発達課題)



遊びに取り組む中で、子どもは「他者」「対象」「自己」とのかかわり方を身に付けていく。これら3つのかかわりが見られる時、それを「豊かな学び」と呼んでいる。これを幼小で一貫した「学び」のあり方として描き、発達段階ごとに想定した「豊かな学び」の姿を「発達課題」として学びの目標としている。

★カリキュラム構築の4つの視点★

③ 学ぶ内容

I 期	II 期	III 期	IV 期	V 期
9つの要素		10の価値	各教科等で 培いたいもの	

保育や授業において培いたい内容を明らかにし、発達段階に沿って順序立てて配列し、それらがどのようにつながっているのか、一つ一つ検証した。そして、どのような活動がどのような教科学習の原体験になっているのか明確にした。学ぶ内容の系統性を明らかにすることで、小学校へ向けて幼稚園で保育していく内容を教師は意識し、保育することができた。

<9つの要素>

生活習慣、運動遊び、仲間意識、規範、コミュニケーション、自然事象、社会事象、表現活動、数量

<10の価値>

生活習慣、運動遊び、社会性、自然、空間、徳性、メディア、言語、表現、数量

④ 教科構成

I 期	II 期	III 期	IV 期	V 期
活動単元「Active-U」 による保育		かけ はし 学習	かけはし学習から 分化した教科等	

子どもが意欲的に活動に取り組むためには、「子ども自身がくらしや授業の中から教科を生み出す体験をする」ことが大切であると考えた。これを「分化体験」と呼び、その体験から教科の枠組みを再構成している。その結果、今まで以上に活動への意欲の高まりが見られている。

<Active-U>

活動単元「Active-Unit」の略。従来の教育課程では分りにくかった、子どもの生活のプロセスが一目で分かるようにした。指導内容である「9つの要素、10の価値」をその時期の子どもの活動や経験に着目し、まとめている。これを配列したものを「Active-U Map」とした。

「Active-U Map」にそって指導していくことで、教育内容の系統性を把握しやすく、小学校に向けて無理のない年間計画の構成につながっている。

<Active-U 例 (3年保育5歳児)>

要素名

- 土、泥、水って気持ちいいね
- 生活習慣：活動に適した服装をしたり、衣服の始末をていねいにしたりすることの大切さに気付く。
- 自然事象：砂、土、水、泡などの感触のよさやそれらを使った遊びのおもしろさに気付く。
- 数量：つくったものや倒した的の数を数えたり、流す水の量を比べたりすることのおもしろさに気付く。
- 活動例：砂遊び、泥だんごづくり、シャボン玉、水鉄砲、水路づくりなど

Active-U名

指導内容だけでは、子どもたちがどのような体験をするのか分りにくいので、Active-Uごとに名前を付けている。

指導内容

【お問い合わせ先】

岡山大学教育学部附属幼稚園

Tel : (086)-272-0260

Fax : (086)-273-9229

E-mail :

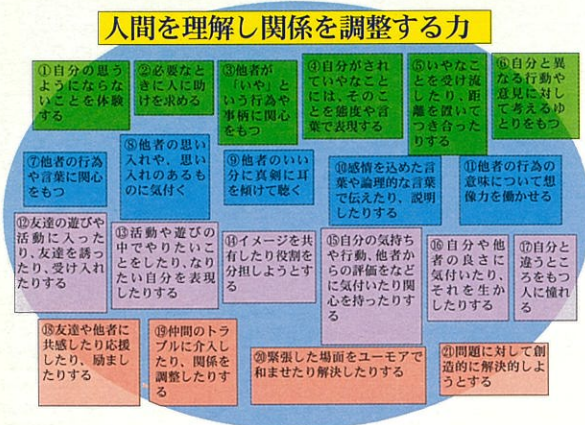
youchien@fuzoku.okayama-u.ac.jp

幼小連携データベースの開発

鳴門教育大学附属幼稚園

幼稚園から小学校へ「人間を理解し関係を調整する力」をコアとした「子どもの育ちが繋がっていく教育課程」を目指し連携研究を進める過程で、保育記録や幼児の記録、事例記録などの保育資料は幼児・児童のプロフィールや指導過程を知る有力な手がかりとなった。「新1年生の子どもたちがどんな遊びをして、どんなことを学んできたかがわかる」「幼稚園でどんな体験をしてきたかが見えやすい」「一人一人の子どもがどのような道筋で育ってきたのか、どのような力や課題をもってきたかを知る手だてになる」など、小学校の先生方の支持を得た。そこで、これまで手作業で行っていたものを、専用のコンピューターソフトを開発し、作業の省力化と合理化を図るデータベースを作成した。

図1 「人間を理解し関係を調整する力」の21項目



幼小連携データベースの仕様と構造

図2 幼小連携データベース

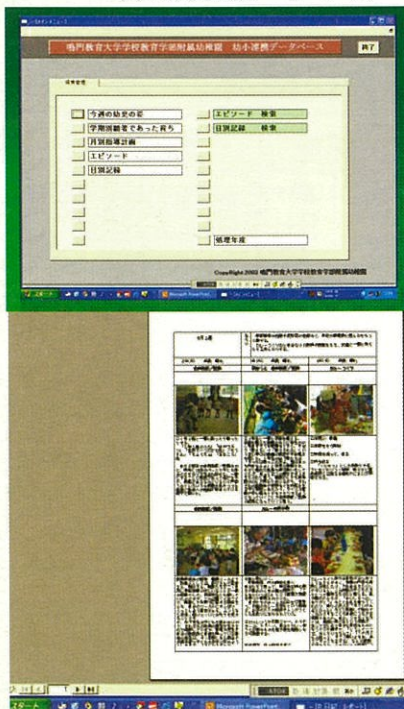


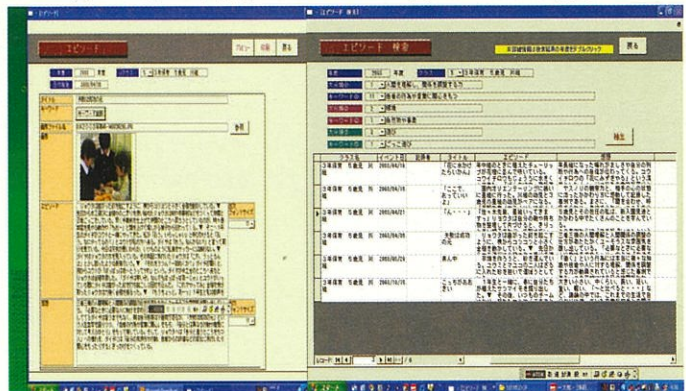
図3 日記記録

週ごとの「ねらい」「内容」を記し、日ごとに保育内容や反省事項を詳述する。週の終わりに「今週の幼児の姿」をまとめ、次週の「ねらい」や「内容」を考える手がかりとする。図3は、3日分の記録のダイジェストである。図4のエピソード記録は、キーワードの項目に、大分類として「人間を理解し関係を調整する力」「環境」「遊び」の3項目がある。大分類「人間を理解し関係を調整する力」の下には21項目の事項を選択登録できるようになっている。大分類「環境」の下には「自然物や事象」「人工的なもの」「文化財」「社会事象」「人の行為や営み」を選択登録できるようになっている。

大分類「遊び」の下には「ごっこ遊び」「運動遊び」「造形遊び」「自然物を使った遊び」「道具を使った遊び」などを選択登録できるようになっている。

図4 エピソード記録

図5 エピソード検索



なお、これらは図5のようにクロス検索できるような仕組みになっており、どのような時期のどのような環境の中の、どのような遊びの中で、どのような「人間を理解し関係を調整する力」が促されたか等も明らかになるようになっている。

図6は、週ごとのいろいろな活動の様子やエピソードをまとめ、その週の幼児一人一人の顕著であった変化や保育者のその幼児への気づきや発見、指導の内容や課題、見通しなどを書き記していくものである。

図6 今週の幼児の姿

図7 園児別記録

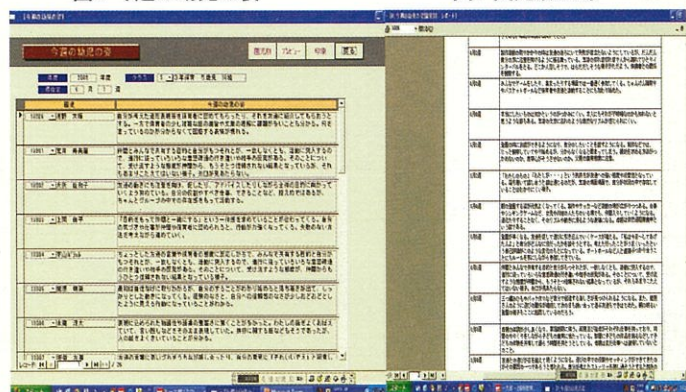


図8 学期別顕著であった育ち

図6右上の「園児別」をクリックすると、図7のようにその幼児についての週ごとの記録が一覧になって現れるようになる。これらの記録の内容を見直して現在の指導や幼児理解を省察したり、今後の見通しを得たりすることに役立っている。また、このような記録内容の変化は、学期ごとの長めのスパンで再度確認し、幼児の「育ち」(発達)の文脈で捉え直し、整理する。幼児一人一人についてまとめたものが、図8「学期別顕著であった育ち」である。

問い合わせ先 鳴門教育大学附属幼稚園
<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp> 電話 088-652-2349

国立大学附属幼稚園の役割

国立大学附属幼稚園では、「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」(H17.1.28 中央教育審議会)の提言を踏まえ、幼児教育の一層の充実のため、主に3つの役割を担います。

発達や学びの 連続性を踏まえた 幼児教育の充実

- (1) 発達の過程を継続的・連続的に捉え、幼小中の教育内容の接続・改善に関するカリキュラムを開発します。
- (2) 幼児の発達に関する実証的な調査研究を推進します。
- (3) 大学の専門性を背景とした附属の実践研究の成果を公表し発信します。



幼稚園教員の 資質及び専門性の向上

- (1) 大学と一体となった教員養成を行い、次代を担う幼児教育者の資質向上に努めます。
- (2) 大学の専門知と附属の臨床知を活かし、現職教員研修の充実を図ります。



家庭や地域社会の 教育力の再生・向上

- (1) 幼児教育に関する情報提供や子育て相談を行い、地域における幼児教育センター的役割を果たします。



コラム

これからの幼児教育

東京成徳大学子ども学科 神長 美津子

戦後、幼稚園が、学校教育法の体系に組み込まれてから、今年で60年となる。この間、幼稚園は、幼児教育としての独自性と学校教育としての一貫性を保つことを追求しつつ、充実・発展してきた。学校教育法の制定の当時、一部に、幼稚園が、学校教育の体系に組み込まれ、組織化された教育になることを反対する意見もあったという。それは、「遊びや生活を通して学ぶ」という、幼児教育の本質が失われるのではないかという危惧である。学校教育は、教科があり、教科書があることを前提とすると考えられていた時代であるから、当然のことかもしれない。それでも、誰でもが受けられる幼児教育となるためには、幼稚園を学校とすることが必要であるとして、学校教育のはじまりとして位置づけられた。現在では、幼稚園も保育所等も整備され、5歳児はほぼ100パーセント近い幼児が、何らかの形で幼児教育を受けている。

さて、これからの幼児教育の課題は、その質の充実である。すなわち、乳幼児期の家庭での一人一人の育ちを受けて幼稚園や保育所での幼児教育がスタートする、さらに幼児教育の成果を受けて小学校教育がはじまるという、発達や学びの連続性を確保することである。現在進められている幼小の連携研究の成果が、広く幼稚園や保育所、小学校で生かされ、幼児教育全体の質が充実することを切に願うものである。

平成18年度 国立大学附属幼稚園研究一覧

	園名	研究テーマ	公開研究会等の期日(予定)
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	幼稚園における発達のに気になる幼児の特性に応じた教育的 支援に関する研究 ～幼児の教育的ニーズに即した個別支援計画の作成と活用～(3年計画)	18. 10. 14(土)
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	知的発達を促す環境構成の工夫	18. 10. 26(木)
3	弘前大学教育学部 附属幼稚園	ともに育ち会う ～遊びを深める援助～	なし
4	岩手大学教育学部 附属幼稚園	学びの基礎を培う遊びの充実を目指して ～しなやかな体を育む遊びの環境を考える～	18. 10. 13(金)
5	宮城教育大学 附属幼稚園	主体的にかかわる幼児をめざして	18. 6. 29(木) 30(金)
6	秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	共に育つ生活	18. 7. 4(火)
7	山形大学 附属幼稚園	豊かな遊びを育む	18. 5. 31(水)
8	福島大学 附属幼稚園	幼児の学びを考える(2年次) ～知的好奇心を育む中で～	18. 5. 27(土) 6. 8(木) 6. 9(金) 11. 4(木)
9	茨城大学教育学部 附属幼稚園	子どもの育ちを支える保育のあり方を見直す	18. 6. 20(火) 6. 27(火) 11. 21(火)
10	宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	しなやかな心と体の育成をめざして ～体を動かす喜びをひきだす協同的な活動～	18. 11. 17(金)
11	群馬大学教育学部 附属幼稚園	豊かな学力を身に付け自己実現を図る子どもの育成 ～「考える力」「表す力」を培う幼小中一貫教育を通して～	18. 6. 8(木) 10. 20(金) 19. 1. 27(土)
12	埼玉大学教育学部 附属幼稚園	保育内容の再考 ～領域「環境」のねらいを視点として～	19. 1. 31(水)
13	千葉大学教育学部 附属幼稚園	ともに育つ幼稚園生活 ～遊びが豊かになる園庭を考える～	18. 9. 26(火)
14	東京学芸大学 附属幼稚園(小金井園舎)	学びをつむぐ生活づくり ～自然環境の見直しから～	18. 10. 28(土)
	東京学芸大学 附属幼稚園(竹早園舎)	主体性を育む幼小中連携の教育	未定
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	協働して学びを生み出す子どもを育てる	19. 2月
16	山梨大学教育人間科学部 附属幼稚園	幼児期にふさわしい生活を考える ～今 幼児期に必要な教育課程～	18. 6. 24(土)
17	新潟大学教育人間科学部 附属幼稚園	創造的な知性を培う(3年次)	18. 10. 17(火)
18	富山大学教育学部 附属幼稚園	集団の中で育つ関係性	18. 10月下旬
19	金沢大学教育学部 附属幼稚園	幼児期の「学び」を探る ～「からだ」で感じるということ～(2年次)	18. 6. 2(金) 10. 13(金)
20	福井大学教育地域科学部 附属幼稚園	遊びのなかの学びをはぐくむ	18. 6. 17(土)
21	信州大学教育学部 附属幼稚園	遊びにうちこむ中に生まれる学びをみつめて	18. 11. 10(金)
22	上越教育大学 附属幼稚園	幼児の生活と仲間関係 ～個の育ち合いを支える(2年次)～	18. 10. 4(水)
23	静岡大学教育学部 附属幼稚園	「共に育つ」 ～今日的課題と幼稚園～	18. 11. 24(金)
24	愛知教育大学 附属幼稚園	幼児の充実感を探る ～5歳児の充実感～	18. 11. 17(金)
25	三重大学教育学部 附属幼稚園	今、必要とされる幼稚園とは ～入園前の子どもも含めて～	未定

26	滋賀大学教育学部 附属幼稚園	生きることが楽しい子どもをめざして	18. 6. 30(金) 8. 22(火) 19. 2. 16(金)
27	京都教育大学 附属幼稚園	豊かな育ちを生み出す学びの環境作り (第3次)	18. 11月
28	大阪教育大学 附属幼稚園	豊かな『からだ』をはぐくむ ～幼児の『からだ』を拓くための生活を考える～	19. 2. 3(土)
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	幼児の生活を充実させる保育環境を考える ～仲間関係を育てる戸外遊びに焦点をあてて～	18. 6. 28(水) 10. 25(水) 19. 1. 24(水)
30	神戸大学発達科学部 附属幼稚園	幼小の育ちをつなぐ新たな教育課程の創造 ～自己実現を支える教師の指導の在り方～	18. 6月 11月 19. 2月 19. 6月
31	奈良教育大学 附属幼稚園	「自尊心の育ちを考える」 ～かけがえのない自分を大切に思う心を育む～	18. 5. 27(土)
32	奈良女子大学 附属幼稚園	子ども理解のサイクル	未定
33	鳥取大学 附属幼稚園	育ち合う ～保育参加と子育て支援～	18. 10. 20(金)
34	島根大学教育学部 附属幼稚園	期にふさわしい生活 ～幼・小の生活や学びの連続性を探る～	未定
35	岡山大学教育学部 附属幼稚園	子ども自らがくらしを創る保育	18. 11. 8(水)
36	広島大学 附属幼稚園	幼児期の自然体験について考える ～森の幼稚園構想に向けて～	18. 11. 22(水) 19. 2. 22(木)
37	広島大学 附属三原幼稚園	幼小中一貫の教育力を生かした社会のグローバル化、高度情報化、 超少子化の進展に対応する国際的コミュニケーション能力の育成 を中心とした21世紀型学校カリキュラムの研究開発	18. 12月
38	山口大学教育学部 附属幼稚園	子どもの育ちと教育課程 ～3つの視点から保育を捉える(2)～	18. 11. 2(木)
39	鳴門教育大学 附属幼稚園	保育の質を問う ～遊誘財について考えるIII～ 集団とのかかわりの中で自己実現を図るために	19. 2. 9(金)
40	香川大学教育学部 附属幼稚園(坂出園舎)	幼・小連携から見えてきた幼児教育(仮)	18. 11. 10(金)
	香川大学教育学部 附属幼稚園(高松園舎)	遊びの中の学び	19. 2. 2(金)
41	愛媛大学教育学部 附属幼稚園	幼年期における豊かな学びの創造	未定
42	高知大学教育学部 附属幼稚園	よく考えて行動する子どもを育む園生活のあり方を探る	19. 2月
43	福岡教育大学 附属幼稚園	幼児期の遊びや生活が充実し、小学校生活へ繋がる教育課程・ 指導計画の見直し(予定)	19. 2. 7(水)
44	佐賀大学文化教育学部 附属幼稚園	幼児期の学びを拓く保育の創造 ～遊びや友達の中で育む、かかわる力と自己肯定感～	19. 2. 11(日)
45	長崎大学教育学部 附属幼稚園	豊かな学びを育む ～言葉を通して～	18. 10. 25(水)
46	熊本大学教育学部 附属幼稚園	遊びの中の学びを再考する —学びを育む教育課程の編成— ～自己課題に着目する～	18. 11. 1(水) 19. 1月
47	大分大学教育福祉学部 附属幼稚園	幼児期にふさわしい知的発達を促す教育を行うための 教育課程・指導計画の作成	19. 2. 3(土)
48	宮崎大学教育文化学部 附属幼稚園	かかわる力を育てる援助のあり方	19. 1. 26(金)
49	鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	確かな学びを育む (三年次)	18. 11. 17(金)



— 発行 —

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

— 事務局 —

群馬大学教育学部附属幼稚園

〒371-0032 群馬県前橋市若宮町2-5-3 tel.027-231-3170 fax.027-231-3163
e-mail. kinder@fuzoku-kg.menet.ed.jp